田中鉄工

群馬県

地域と共創する脱炭素イノベーション創出事業「ソーシャル X アクセラレーション for GUNMA」ファイナリストに選出

田中鉄工㈱（佐賀県、末吉文晴社長）は、群馬県が「令和６年度 地域と共創する脱炭素イノベーション創出事業」として開催された官民共創型アクセラレーションプログラム「ソーシャル X アクセラレーション for GUNMA」のファイナリスト１０社に選出された。同社は 12 月に開催された自治体との実証実験の要件定義を考えるワークショップを皮切りに、約２カ月間のメンタリングを経て、２月１２日に群馬県庁で開催された最終審査会で GX 推進室 SDGs 推進室 Executive 陣内太氏が有識者、市民を前にプレゼンした。

■ロードカル SDGsを通じた群馬の GX 実現

陣内太氏がプレゼンしたテーマは、「UCO の利活用による、官民一体プロジェクト ロードカル SDGｓを通じた群馬県の GX 実現」。

田中鉄工は国内 13 拠点に展開し、今年 4 月には群馬県高崎市にサービスステーションを開設する予定だ。同社が目指しているのは、道路舗装業界のカーボンニュートラル。この社会課題の解決に向けてＧＸリーグへの提言等、各省庁と連携している。また全国の様々な自治体とも連携しており、群馬では県議会の環境農林常任委員会への取組共有会も実施した。

群馬県では アスファルト合材製造時に、年間約 57 万Ｌ の重油が使用され、約２万トンの CO_2 が排出されている。いっぽう、カーボンニュートラル・自然共生圏・循環型社会に貢献できるのが廃食油だ。重油や軽油の代替燃料として利活用することで、CO_2 や可燃ごみの削減、大気汚染や水質汚染の軽減にもつながり、環境保全に大きく貢献する。さらに、群馬県で出た廃食油を地産地消エネルギーとして、群馬県の誰もが利用する道路や歩道に還元できる。

同社の調査によれば、群馬県の家庭から出る廃食油は、約 97・5%が捨てられている。この 「廃棄されている資源のリサイクルが 地球を救う」。これが 気候変動に対す

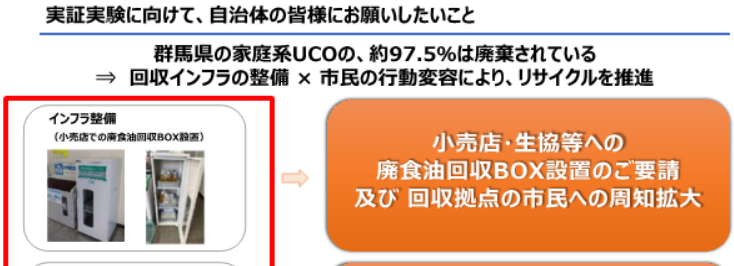
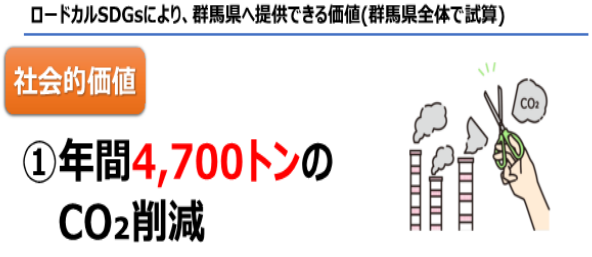
る同社の答えだ。

その成功例として、陣内氏は北海道小樽市の「ロードカル SDGs」事業を紹介した。小樽市は回収開始から２年目で、家庭系廃食油の回収量が前年比約４倍になり、アスファルトプラントでは９か月間の廃食油混焼で約 326 トンの CO_2 削減に貢献した。廃食油を燃料として製造された合材の約95％は小樽市と小樽市隣接町の道路に還元され、地産地消の実現にも貢献している。

田中鉄工は群馬県でも、同様のムーブメントを起こしたいと考えている。そのために回収拠点の拡大・リサイクルによる社会貢献量の見える化・テレビ CM 等のメディア発信・SDGs 教育の展開・全油連との連携によるトレーサビリティシステムの展開など持ち得るアセットを紹介。

「ムーブメント実現ためのポイントは、回収インフラの整備と市民の行動変容です。地域の特性に即した形で、われわれのアセットを活用いただきたい。自治体のみなさまへお願いしたいことは、

１）小売店・生協等への廃食油回収 BOX 設置のご要請と市民への周知拡大。２）SDGs 教育の実施です」と述べてプレゼンを締めくくった。

田中鉄工はおしくも入賞を逃したが、地元メディアである群馬テレビは廃食用油に注目し、報道番組の構成で田中鉄工を大きく取り上げた。

プレゼンする陣内氏